

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所

令和3年10月28日(木)

第9号

電話 0294-34-0774

FAX 0294-32-0006

E-mail hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

【外国語】 指導と評価の一体化に向けて

「指導と評価の一体化」の必要性は、今回の学習指導要領改訂において、より一層明確なものとなりました。日々の学習指導を進める中で、目標と学習活動を一致させ、目標に準拠した評価を意識し、目標と指導と評価の一体化を図っていくことが必要です。学習評価の進め方と留意点を下記に示しましたので、改めて確認していただければと思います。また、文部科学省「中学校学習指導要領・学習評価の解説(前編・後編)」(Youtube[mextchannel])も参考に是非ご視聴ください。

【評価の進め方】

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する

【留意点】

○各学校における児童生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を定めます。(CAN-DOリスト形式等を参考に)

○単元ごとの目標は、学年ごとの目標を踏まえて作成します。

○各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項(言語材料)、言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に即して設定します。

○1、2を踏まえ、適切な評価の場面を設定し、パフォーマンス評価を行う場合は、ルーブリックを作成します。(ルーブリックは児童生徒と共有します)

○どのような姿を「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりします。

○3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。単元の終末や後日にペーパーテスト又はパフォーマンステスト等を実施します。(毎時間、総括するための評価を行う必要はありません)

○集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价(A、B、C)を行います。

【参考】『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(中学校・外国語)(文部科学省)

理科の学びと1人1台端末の活用

ICTは、主体的・探究的・協働的に学ぶために有効なツールです。教師は活用する場面を適切に選択し、学習の場を広げたり、学習の質を高めたりしていくことが求められます。

理科における観察、実験などの指導に当たっては直接体験が基本ですが、問題解決や探究活動の中でICTを活用することで、資質・能力の育成がさらに期待できます。活用のポイントを示しましたので、授業づくりや校内研修等での活用をお願いいたします。



効果的な指導法プレゼンテーション大会の開催について

いばらきサイエンスキッズ育成事業の一つとして、上記大会を令和4年1月28日(金)に実施いたします。教員の指導力向上を図り、児童生徒の学力向上へとつなげるため、ぜひ先生方の自作教材やICT等を活用した実践事例をご紹介ください。詳しくは、令和3年6月22日付け義教第825号を参照ください。

